

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		社会教育指導員配置事業		担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度		
				担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
					会計	款	項	目	備考			(実績)	(実績)	(実績)					
まちづくりプラン （基本目標）		振興計	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち	予算科目	1	10	4	1		ア	高齢者学級数	学級	23 23	23 21	23 19	12 12	12 12	
(個別目標)		計画	2			多様な志を育むまち	主な費目	報酬、報償費、旅費					イ	高齢者学級参加者数	人	700 545	700 501	700 459	700 700
(施策)		体系	2	社会教育の充実	対象	社会教育指導員					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
(基本目標)		総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる							ア	高齢者学級参加延人数	人	4,000 2,679	4,000 1,903	4,000 2,213	4,000	4,000	4,000
(施策)		5	5	こころざしアップ教育推進プロジェクト	事業期間	H29 R5		年度～ 年度（7年間）		イ									
(1)総事業費の推移				単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価						
年間 トータル コスト	事業費 内訳 人件費	財源内訳	国県支出金	千円							有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	社会教育主事を補佐し、社会教育の特定分野についての直接指導、学習相談又は社会教育関係団体の育成等を行うものであり、社会教育の推進・充実、市民の学習活動の推進が図られる。						
		財源内訳	その他特定財源	千円															
		財源内訳	一般財源	千円	6,688	6,692	6,743	6,965	6,965	6,965									
		事業費計	(A)	千円	6,688	6,692	6,743	6,965	6,965	6,965									
		所要人員	(年間)	人	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025									
		人件費概算	(B)	千円	140	140	140	140	140	140									
(A) + (B)		千円	6,828	6,832	6,883	7,105	7,105	7,105											
(2)事業概要																			
事業目的	社会教育主事を補佐し、社会教育の特定分野についての直接指導、学習相談又は社会教育関係団体の育成・指導等を行う。																		
事業内容	・高齢者学級や家庭教育学級等の募集・企画・運営 ・学習相談又は社会教育関係団体の育成・指導 等																		
開始経緯	生涯学習の指導、相談対応等のため配置しており、社会教育指導員の指導助言により、高齢者学級の開催や社会教育関係団体の育成により、市民の学習活動の推進が図られる。																		
実施状況	3人の社会教育指導員を配置し、高齢者学級や家庭教育学級等の企画・運営等公民館主事と連携し社会教育の推進を行っている。																		
成果	3人の社会教育指導員を配置し、高齢者学級や家庭教育学級等の企画・運営、社会教育団体の育成・指導を公民館主事等と連携しながら実施し、社会教育の推進・充実が図られた。																		
課題	高齢化・過疎化等により参加者が減少傾向にあることや地域により運営体系に違いがあることから、今後、研修内容の充実や事業周知により参加者確保と提供するサービスの統一を図る必要がある。																		
												改革改善案							
												拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了		

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		家庭教育学級開設事業		担当課	生涯学習課					(3) 指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度							
				担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)						
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち		予算科目	1	10	4	1		ア	開設学級数	学級	39 29	39 29	39 33	39	39	39				
（個別目標）			2	多様な志を育むまち		主な費目	報償費、委託料						イ	家庭教育学級生	人	2,300 1,118	2,300 1,141	2,300 1,552	2,300	2,300	2,300			
（施策）			2	社会教育の充実		対象	家庭教育学級					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標)	(目標)	(目標)				
（基本目標）			3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる								ア	家庭教育学級参加率	%	80 65	81 64	82 56	83	83	83				
（施策）			5	こころざしアップ教育推進プロジェクト		事業期間	年度～ 年度（ 年間）					イ												
(1) 総事業費の推移		単位	3年度 (実績・決算)		4年度 (実績・決算)		5年度 (実績・決算)		6年度 (計画・予算)		7年度 (計画・予算)		8年度 (計画・予算)		(4) 評価		所管課による評価							
年間トータルコスト	事業費 財源内訳	国県支出金	千円									有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	保護者や地域から子育てに関する意見・要望等が多く寄せられており、また、近年、情報モラル教育等、様々な課題も生じていることから、身近な保育所（認定こども園を含む）、幼稚園、小学校、中学校に家庭教育学級を開設し、全ての教育の原点である家庭教育の充実を図る必要がある。										
		その他特定財源	千円																					
	一般財源	千円	1,014	1,000	1,240	1,240	1,240	1,240																
	事業費計（A）	千円	1,014	1,000	1,240	1,240	1,240	1,240																
	人件費	所要人員（年間）	人	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025															
		人件費概算（B）	千円	140	140	140	140	140	140															
		人件費単価	千円	5,600	5,600	5,600	5,600	5,600	5,600															
(A) ＋ (B)		千円	1,154	1,140	1,380	1,380	1,380	1,380																
(2) 事業概要																								
事業目的	家庭教育は全ての教育の原点であり、親と子が日常的な生活を送る中で、基本的な生活習慣や善悪の判断等を身に付け、思いやりの心や感動する心などをもつ、心豊かな子どもの育成を目指して保護者が共に学習する。														効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	保育所（認定こども園を含む）、幼稚園、小学校、中学校と連携しながら、内容の充実を図る必要がある。 また、経費については講師謝金や消耗品等の経費に充てられており、削減は難しい。							
事業内容	・事業説明 ・年間学習計画書受理・審査 ・委託契約締結、委託料支払 ・実績報告書受理・審査																							
開始経緯	家庭教育は社会教育の原点であり、基本的な倫理観や社会的なマナーなどを育成するうえで重要な役割を果たすものであるため。														達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	家庭が全ての教育の原点であるという認識と関心をもってもらうため、全ての市内保育所（認定子ども園を含む）での開設を目標に、福祉課と連携しながら、開設を推進していく。							
実施状況	家庭教育学級を保育所（認定こども園を含む）、幼稚園、小学校、中学校の29学級を開設。それぞれの学級が、様々な工夫をしながら事業を実施しており、平均8回程度の活動となっている。学習内容は人権教育、心肺蘇生・AED講習、子育て学習、食育などの各種学習会、ニュースポーツ体験、レクリエーション活動や携帯スマートフォン等の情報モラル教育など多彩なプログラムが実施されている。																							
成果	各学級では、家庭教育の充実を図るための様々な事業が実施され、人権教育、食育や情報モラル教育など課題解決の学習活動のへ指導助言を行ったほか、「志アップ 子育て手帳」の活用により、学級生の資質向上が図られた。														改革改善案	拡充	○	現状維持		改善		効率化		廃止終了
課題	家庭が全ての教育の原点であるという認識と関心をもってもらうため、市内16保育所（認定子ども園を含む）での開設を目標に、福祉課と連携しながら、引き続き家庭教育の推進を行っていく。																							

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		公民館管理運営事業			担当課		生涯学習課			(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度			
					担当G		社会教育グループ			活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
							会計	款	項				目	備考	(実績)	(実績)	(実績)			
まちづくりプラン（基本目標）		振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち		予算科目	1	10	4	2		ア	条例公民館数	箇所	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	
(個別目標)		計画体系	2	多様な志を育むまち		主な費目	報酬、旅費、需用費、委託料					イ								
(施策)		体系	2	社会教育の充実		対象	条例公民館					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
(基本目標)		総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる								ア	施設利用者延人数	人	70,000 27,242	70,000 44,151	70,000 54,152	70,000	70,000	70,000
(施策)		戦略	5	こころざしアップ教育推進プロジェクト		事業期間	年度～ 年度（ 年間）					イ	生涯学習講座参加人数	人	20,000 10,539	20,000 12,098	20,000 13,430	20,000	20,000	20,000
(1)総事業費の推移			単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価								
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	条例公民館は、地域住民のコミュニケーション及び生涯学習の場として活用されており、引き続き利用者が利用しやすい施設の維持管理に努める必要がある。								
			その他特定財源	千円																
		一般財源	千円	31,973	32,449	52,598	21,074	30,000	21,074											
		事業費計（A）	千円	31,973	32,449	52,598	21,074	30,000	21,074											
	人件費	所要人員（年間）	人	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200											
		人件費概算（B）	千円	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120											
(A) ＋ (B)		千円	33,093	33,569	53,718	22,194	31,120	22,194												
(2)事業概要																				
事業目的	市内9条例公民館に公民館主事を配置し、施設の利用調整や維持管理、生涯学習講座等の企画・運営を行い、市民のが利用しやすい環境を整え、生涯学習の中心施設として利用促進を図る。									効率性評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	生涯学習講座の運営・企画等、内容を工夫しながら、参加者の増加を図っている。 また、9人の公民館主事の配置に伴う経費や施設の維持管理に係る経費であり、削減は難しい。								
事業内容	・利用調整や施設の維持管理 ・生涯学習講座等の企画・運営 ・施設修繕、保守点検業務 等																			
開始経緯	社会教育法第21条第1項に基づき社会教育推進の中心施設として整備されており、地域住民のコミュニケーション及び生涯学習の場となっている。									達成度評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	適正な施設の維持管理を行うとともに、生涯学習講座等の充実に図りながら、利用者の利便性を向上による、利用者数の増加を目指す。								
実施状況	市内9条例公民館に公民館主事を配置し、施設の利用調整や維持管理、生涯学習講座等の企画・運営を行い、市民のが利用しやすい環境を整え、生涯学習の中心施設として利用促進が図られた。																			
成果	条例公民館については、市民が利用しやすい施設として、地域住民のコミュニケーション及び生涯学習の場となっている。様々な活動に加え、高齢者学級や生涯学習講座も開設し、社会教育の推進が図られた。									改革改善案	拡充		○	現状維持	改善	効率化	廃止終了			
課題	施設や空調機等の設備の老朽化が進んでいることから、公共施設管理計画に基づいた施設や設備の整備・更新などを年次的に進める必要がある。										予約システムの導入をはじめとした、利便性向上に係る取組を検討する。									

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		農村研修センター管理事業		担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度			
				担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)			
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	農村研修センター 田之浦ふるさと交流館数	箇所	4 4	4 4	4 4	4 4	4 4	4 4	
（個別目標）		振興計画体系	2	多様な志を育むまち	主な費目	委託料、役務費					イ									
（施策）		振興計画体系	2	社会教育の充実	対象	農村研修センター					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
（基本目標）		総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる							ア	施設利用者延人数	人	5,000 4,801	5,000 5,493	5,000 6,795	7,000 7,000	7,000 7,000	7,000 7,000	
（施策）		総合戦略	1	快適な生活支援プロジェクト	事業期間	年度～ 年度（ 年間）					イ									
(1) 総事業費の推移				単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価							
年間 トータル コスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円							有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	これまで地域の中心となる施設として活用されているが、利用者の利便性の向上や役割分担の明確化等の課題が生じていたことから、地域の校区公民館長から、指定管理者制度について意見を伺っており、地域の活力を積極的に活用することが適当と考えられることから、変更することとなった。							
		財源内訳	その他特定財源	千円																
		財源内訳	一般財源	千円	7,225	1,956	2,563	2,217	2,217	2,217										
		事業費計（A）	千円	7,225	1,956	2,563	2,217	2,217	2,217											
		所要人員（年間）	人	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050											
(A) + (B)	人件費概算（B）	千円	280	280	280	280	280	280												
	(A) + (B)	千円	7,505	2,236	2,843	2,497	2,497	2,497												
(2) 事業概要																				
事業目的	研修、集会等を通じて農村地域住民の社会的連帯感を高め、魅力ある生活環境の形成及び地域づくりに寄与するため設置している。																			
事業内容	・指定管理に係る基本協定、年度協定締結 ・利用状況報告 ・協定を超える施設修繕 等																			
開始経緯	・田之浦ふるさと交流館－平成17年 ・森山地区生活改善研修センター－昭和50年 ・潤ヶ野地区営農研修センター－昭和53年 ・八野地区農業構造改善センター－平成3年 ・内之倉農村広場－平成元年 に整備され、令和3年度より運営形態をこれまでの直営方式から指定管理者制度に変更する。																			
実施状況	これまで校区公民館活動の話し合い活動等の施設として使用されるとともに、災害時の避難所等に指定されている施設もあり、地域の中心となる施設として活用されている。																			
成果	これまで地域の中心となる施設として活用されているが、今回の指定管理者制度への変更により、利用者の利便性の向上や役割分担の明確化、これまで以上に施設の有効活用が図られる。																			
課題	施設や空調機等の設備の老朽化が進んでいることから、公共施設管理計画に基づいた施設や設備の整備・更新などを年次的に進める必要がある。																			
												改革改善案								
												拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了			

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		青少年研修支援事業				担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度					
						担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）		単位	（目標）	（目標）	（目標）	（目標）	（目標）	（目標）				
						予算科目	会計	款	項	目	備考				（実績）	（実績）	（実績）							
まちづくりプラン（基本目標）		振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち					1	10	4	3		ア	研修応募者数（小・中・高校生）	人	25 0	25 54	35 59	35	35	35		
（個別目標）			2	多様な志を育むまち									イ											
（施策）			2	社会教育の充実				対象	青少年					成果指標（成果・効果）		単位	（目標）	（目標）	（目標）	（目標）	（目標）	（目標）		
（基本目標）		総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる													（実績）	（実績）	（実績）					
（施策）			5	こころざしアップ教育推進プロジェクト										事業期間	年度～ 年度（ 年間）					ア	研修参加者数（小・中・高校生）	人	19 0	19 26
													イ	リーダー研修やジュニアリーダー活動等への参加	人	5 1	5 2	5 2	5	5	5			
(1) 総事業費の推移			単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価												
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	民間等が行う海外研修は、自己負担が大きい。事業に参加した学校、保護者等からは青少年育成に効果的である事業なので継続すべきとの意見がある。 海外や国内でのホームステイの経験によって、幅広い視野と国際感覚、生活習慣・文化の違いを学ぶことができ、かつ語学力の向上が期待できること、また地域のリーダーとなる広い視野を持つ青少年育成を図る。												
		財源内訳	その他特定財源	千円																				
	財源内訳	一般財源	千円	86	988	4,395	7,264	7,500	7,500															
	人件費	事業費計（A）	千円	86	988	4,395	7,264	7,500	7,500															
	人件費	所要人員（年間）	人	0.700	0.700	0.700	0.700	0.700																
	人件費	人件費概算（B）	千円	3,920	3,920	3,920	3,920	3,920	0															
			(A) + (B)	千円	4,006	4,908	8,315	11,184	11,420	7,500														
(2)事業概要																								
事業目的	青少年を国外に派遣し、異文化、異言語を体験させ、自己の確立と地域のリーダーを育成を図る。また、国内においても英語とふれあい、興味をを持つことで学びの意欲を育む。											効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	国際交流、国際感覚と語学力向上、生活習慣・文化の違いを学ぶ場の提供として、募集、計画、事前研修等に関して行政の支援が必要であり、補助金については、研修費用に係る経費であり削減は難しい。										
事業内容	・補助金交付事務 ・各会議等の連絡調整、資料作成や助言、活動支援 等 ・国内研修事業の企画、運営																							
必要性	開始経緯	平成6年度から様々な研修事業に取り組んできており、現在ではアメリカ合衆国の海外研修とイングリッシュキャンプ（国内研修）としている。											達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	参加者募集・周知を図りながら、多くの児童・生徒に異文化、異言語を体験させ、自己の確立と地域のリーダーを育成を図る必要がある。									
実施状況	実施状況	中学生、高校生対象のアメリカ合衆国への海外研修、小中学生対象のイングリッシュキャンプを実施しており、多くの参加希望があることから、作文、面接等により選考している。																						
成果	成果	令和2年度より、海外研修について、新型コロナウイルス感染症感染予防のため事業を中止したが、令和4度は、代替事業として、2泊3日のイングリッシュキャンプを行い対象者の学ぶ意欲の向上が図れた。令和5年度は4年ぶりに国外研修事業が再開した。											改革改善案	○ 拡充		現状維持		改善		効率化		廃止終了		
課題	課題	国外研修の研修先であるアメリカ合衆国の経済状況と円安により事業費の高騰が続いている。事業の趣旨、目的の達成が研修先を変更しても可能であれば、様々な選択肢を視野に検討を始める必要がある。												国外研修については、これまでの英語圏に加え、アジア各国を対象とした事業にも視野を広げることが必要である。 国内研修については、イングリッシュキャンプの参加者を小学生まで拡充して行う。山形研修については現状休止とし、派遣事業の趣旨を鑑みて再開に至るべきものか検討する。										

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		ジュニアリーダー・インリーダークラブ（JACOクラブ）支援事業		担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度		
				担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	クラブ会員数	人	30 34	30 25	30 23	30	30	30	
（個別目標）		振興計画体系	2	多様な志を育むまち	主な費目	負担金補助及び交付金					イ活動回数（年間）	回	15 8	15 8	15 15	15	15	15	
（施策）		振興計画体系	2	社会教育の充実	対象	ジュニアリーダー・インリーダークラブ会員					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)
（基本目標）		総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる							ア参加した延べ人数	人	200 152	200 117	200 176	200	200	200	
（施策）		総合戦略	5	こころざしアップ教育推進プロジェクト	事業期間	令和3年度～ 年度（ 年間）					イリーダーとしての責任や 自覚が持てた会員数	人	30 26	30 21	30 23	30	30	30	
(1) 総事業費の推移				単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価						
年間 トータル コスト	事業費 内訳	財源	国県支出金	千円							有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	ボランティア活動や体験活動、研修への参加を積極的に希望する児童・生徒・保護者もあり、活動・研修内容の見直しや募集方法を検討しながら、クラブ員の確保を図っている。						
		財源	その他特定財源	千円															
		財源	一般財源	千円	419	295	222	666	666	666									
		事業費計	(A)	千円	419	295	222	666	666	666									
		所要人員	(年間)	人		0.200	0.200	0.200	0.200	0.200									
		人件費概算	(B)	千円	0	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120									
(A) + (B)				千円	419	1,415	1,342	1,786	1,786	1,786									
(2) 事業概要																			
事業目的	ジュニアリーダー・インリーダークラブを統合したクラブを設立し、ボランティア活動や自然体験研修など異年齢集団での交流を通して、地域リーダーを育成を図る。																		
事業内容	・補助金交付事務 ・各会議等の連絡調整、資料作成や助言、活動支援 等 ・自然体験活動・研修、ボランティア活動、異年齢交流等 事業企画運営																		
開始経緯	令和3年度からジュニアリーダー・インリーダークラブを統合したクラブを設立した。地域を牽引する若年層のリーダーを育成するため、これまで高校生クラブをジュニアリーダークラブに統一する等、実情に応じて変更してきた。																		
実施状況	ジュニアリーダー・インリーダークラブがそれぞれ活動していたが、活動や研修内容が類似していることから、令和2年度から合同での開催とした。小学生から高校生までの異年齢の活動であったが、それぞれの役割を理解し、充実した活動が展開されている。																		
成果	ジュニアリーダー・インリーダークラブの合同での開催により異年齢交流や研修内容の充実し、地域リーダー育成が図られた。																		
課題	地域のリーダーを育成するため、活動内容を常に見直し、更なる活動の充実を図る必要がある。																		
												拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了		
改革改善案																			

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		志布志市文化会館管理運営事業					担当課		生涯学習課		(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度											
							担当G		社会教育グループ		活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)										
							会計	款	項	目				備考	(実績)	(実績)	(実績)												
まちづくりプラン（基本目標）		振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち					予算科目	1	10	4	7																
(個別目標)		計画体系	2	多様な志を育むまち					主な費目	指定管理料、修繕料、建物共済保険料、旅費																			
(施策)		体系	1	生涯学習の推進					対象	市民	成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)										
(基本目標)		総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる										(実績)	(実績)	(実績)													
(施策)		戦略	5	こころざしアップ教育推進プロジェクト										事業期間	H28	年度～	年度（		年間）										
(1)総事業費の推移			単位	3年度 (実績・決算)		4年度 (実績・決算)		5年度 (実績・決算)		6年度 (計画・予算)		7年度 (計画・予算)		8年度 (計画・予算)		(4)評価				所管課による評価									
年間トータルコスト	事業費内訳	財源	国県支出金	千円												有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	施設の老朽化により施設・設備の不備が発生しており、計画的な改修工事を実施することで利用者の利便性及び安全性の向上が図られる。 市の文化振興の中核施設であり、利用者数も多いことから、廃止・休止は困難である。 類似施設として松山地区にやっちくふれあいセンターがあるが、施設規模、周辺環境が異なるため、統廃合は困難である。											
		財源	その他特定財源	千円																									
		財源	一般財源	千円	23,012	24,532	25,570	26,300	26,300	26,300																			
		事業費計	(A)	千円	23,012	24,532	25,570	26,300	26,300	26,300																			
		所要人員	(年間)	人	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100																				
		人件費概算	(B)	千円	560	560	560	560	560	0																			
		(A)＋(B)	千円	23,572	25,092	26,130	26,860	26,860	26,300																				
(2)事業概要																													
事業目的	文化施設の管理業務を民間団体に委託・管理させることにより、民間のノウハウを活用しつつ、より一層の市民サービスの向上と経費の節減を図る。																												
事業内容	文化会館の文化ホール・集会室等については、その設置目的に基づき、効率的、効果的に管理・運営を行う必要がある。それらの管理運営業務を指定管理者に委任する。但し、自主文化事業の企画・実施、舞台関係の操作管理業務は除く。																												
開始経緯	施設の管理は、平成18年8月まで、志布志市公共施設等管理公社へ管理委託していたが、地方自治法の改正に伴う管理委託制度の廃止により平成18年9月から指定管理者制度へ移行した。																												
実施状況	コミュニティセンター志布志市文化会館 指定管理料 円 指定管理者 特定非営利活動法人志布志生涯学習センター																												
成果	指定管理者制度の導入により、事務の簡略化、時間外での対応、迅速な施設修繕等を行うことで、文化施設利用者の利便性、安全性が向上している。																												
課題	施設の老朽化が進んでおり、年次的な改修（リニューアル工事）計画及び実施について、公共施設の個別管理計画により進めていく必要がある。																												
改革改善案																			拡充		○	現状維持		改善		効率化		廃止終了	

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		舞台吊物音響照明操作等委託事業					担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度			
							担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)			
							会計	款	項	目	備考	(実績)			(実績)	(実績)							
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち					予算科目	1	10	4	7		ア	3施設の舞台（ホール）利用回数	回	500 427	500 469	500 509	500	500	500
（個別目標）		振興計画体系	2	多様な志を育むまち					主な費目	委託料					イ								
（施策）		振興計画体系	1	生涯学習の推進					対象	3施設（文化会館、ふれセン、有明地区公民館）の利用者					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
（基本目標）		総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる											ア	施設の利用回数	回	1,500 1,047	1,500 1,312	1,500 1,296	1,500	1,500	
（施策）		総合戦略	5	こころざしアップ教育推進プロジェクト					事業期間	年度～ 年度（ 年間）					イ	利用者数	人	51,700 30,550	48,600 47,484	48,000 42,589	48,000	48,000	
(1) 総事業費の推移			単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価											
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	専門的な知識・資格を有し実績のある業者は市内には他に なく、設備管理、舞台運営を円滑に実施しているため、向上の 余地はない。 施設の運営には不可欠な業務であるため、廃止はできない。 受注業者は市内に一者しかいないため、随意契約となっている。 仮に市外の業者に委託した場合、契約金額が高額になる 可能性が高い。											
		財源内訳	その他特定財源	千円																			
		財源内訳	一般財源	千円	7,309	8,496	9,179	9,900	9,900													9,900	
		事業費計（A）	千円	7,309	8,496	9,179	9,900	9,900	9,900														
		所要人員（年間）	人	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050															
		人件費概算（B）	千円	280	280	280	280	0															
			(A) + (B)	千円	7,589	8,776	9,459	10,180	10,180	9,900													
(2)事業概要																							
事業目的	舞台吊物音響照明操作等の専門業務を委託することにより、安全かつ適正な操作及び施設の管理を行うため、専門業者に委託する。											効率性評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	委託している業者は、当該施設の舞台装置の操作等に精通しており、技術力も高い。近隣の自治体で同等の類似施設を受託している業者の委託料と比較して、安価であるため事業費の削減は困難である。 委託契約業務のため、人件費及び業務時間の削減の余地はない。									
事業内容	文化会館等の舞台吊物音響照明等の操作業務を、専門的な技術をもつ業者に業務委託する。（志布志市文化会館・やっちくふれあいセンター・有明地区公民館の3施設）																						
開始経緯	合併前は、志布志市文化会館の1施設のみの管理運営体制であったが、現在は、3施設を1人常駐と補充者で運営している。3施設でイベント等が重なった場合、大がかりな仕掛けが必要な場合等には、物理的に人員の補充が不可欠となる。											達成度評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	設備の適正な管理を行うことで、利用者からの要望に適切に対応し、各種文化事業、集会等を円滑に実施することができた。									
実施状況	志布志市文化会館、やっちくふれあいセンター、有明地区公民館の3施設に対して舞台吊物音響照明操作等の専門業者1人を常駐とし、催物が重複した場合は従事者（有資格者を含む）を補充した。																						
成果	設備の適正な管理を行うことで、利用者からの要望に適切に対応し、各種文化事業、集会等を円滑に実施することができた。											改革改善案	拡充		○	現状維持	改善		効率化		廃止終了		
課題	設備（照明、音響機器等）の経年劣化のため、舞台等の事業実施中に不具合が発生する可能性が危惧されており、機器の更新をする必要がある。																						

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名			志布志市文化協会運営支援事業					担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度			
								担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)			
								会計	款	項	目	備考	(実績)			(実績)	(実績)							
まちづくりプラン（基本目標）			振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち					予算科目	1	10	4	5		ア	文化祭等の開催	回	4 0	4 4	4 4	4	4	
(個別目標)			2	多様な志を育むまち					主な費目	補助金														
(施策)			1	生涯学習の推進					対象	市民	成果指標（成果・効果）					単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
(基本目標)			3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる													(実績)	(実績)	(実績)					
(施策)			5	こころざしアップ教育推進プロジェクト					事業期間	平成19 年度～ 年度（ 年間）					イ	市文化協会の加盟団体数	団体	105 84	105 79	105 78				
(1)総事業費の推移			単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価												
年間 トータル コスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	文化協会の会員が高齢化しており、地域の芸術・文化振興を担う人材育成の観点から新規団体の加盟及び会員の加入促進が必要である。 廃止・休止の場合、文化協会の活動の鈍化し、地域の文化芸術が衰退する可能性がある。 文化協会の類似団体は市内には存在しないため、統廃合は困難である。 各支部に配分する運営費について、会員数を基に分配しており、公平である。												
		財源内訳	その他特定財源	千円																				
		財源内訳	一般財源	千円	0	996	996	996	996													996		
		事業費計	(A)	千円	0	996	996	996	996													996		
		所要人員	(年間)	人	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200													0.200		
		人件費概算	(B)	千円	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120													1,120		
(A) + (B)			千円	1,120	2,116	2,116	2,116	2,116	2,116															
(2)事業概要													効率性 評価											
事業目的	市文化協会の芸術文化に関する活動を支援することで、市文化協会の活動内容の活性化と、地域の芸術文化の振興を図る。																							
事業内容	文化団体に加入している会員が、文化活動に自ら参加し、積極的に学習に取組み、芸術文化の振興を図る。併せて、各地区の既存の文化協会相互の交流を図る。																							
開始経緯	18年1月の合併以前は、それぞれの地区（松山、志布志、有明）の文化協会の活動があったが、それらを調整・統合するための組織が必要となったので、20年3月に連絡協議会を設立した。																							
実施状況	本市の芸術文化の振興を図るため、文化団体に加入している会員が文化芸術活動に積極的に取り組むとともに、各支部文化協会の相互の交流を図った。																							
成果	市総合芸術祭、各支部文化協会による文化祭等を開催する予定であったが、コロナウィルス感染症の影響により開催できなかった。												改革 改善案		拡充	○	現状維持		改善		効率化		廃止終了	
課題	会員が高齢化しており、組織運営及び芸術文化の技術継承のために新規団体の加盟及び会員の加入促進を図る必要がある。																							

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		自主文化事業		担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度												
				担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)											
まちづくりプラン （基本目標）		振興計	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	開催回数	回	2	3	3	3	3											
		画	2			1	10	4	5					0	4	4													
(個別目標)		体系	2	多様な志を育むまち	主な費目	委託料					イ																		
(施策)		系	1	生涯学習の推進	対象	市民																							
(基本目標)		総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる																									
(施策)		略	5	こころざしアップ教育推進プロジェクト	事業期間	昭和52 年度～ 年度（ 年間）					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)										
											ア	入場者数	人	1,200 0	1,200 3,200	1,200 2,902	1,200	1,200											
											イ																		
(1)総事業費の推移		単位		3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価																	
年間 トータル コスト	事業費	国県支出金	千円							有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	公演内容（講演会・コンサート等）の選考、広報活動の強化することで、更なる成果の向上も期待できる。 廃止・休止の場合、市民の質の高い生の芸術文化（講演会・コンサート等）を鑑賞する機会の喪失し、地域の文化芸術が衰退する可能性がある。 類似事業を行っている団体・機関がない。 市内全域に周知活動を行い、チケットも同一金額で販売していることから、公平である。																	
	財源内訳	その他特定財源	千円	296	7,571	5,458	5,458	5,458	5,458																				
	一般財源	千円	2,126	2,577	5,189	5,189	5,189	5,189																					
	事業費計（A）	千円	2,422	10,148	10,647	10,647	10,647	10,647																					
	所要人員（年間）	人	0.600	0.800	0.800	0.800	0.800																						
人件費	人件費概算（B）	千円	3,360	4,480	4,480	4,480	4,480	0	効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	事業費の削減した場合、公演内容（講演会・コンサート等）の質が低下又は公演回数の減少するため、削減の余地はない。 公演等の調査、アーティスト等の選定、プロモーターとの契約等の外部委託できない業務を行っており、削減の余地はない。																		
(A) + (B)	千円	5,782	14,628	15,127	15,127	15,127	10,647																						
(2)事業概要																			達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	予定していた公演をすべて実施することができた。トータル集客率も80%を超えることができた。								
事業目的	鑑賞型芸術文化事業等を企画実施し、市民に優れた舞台芸術鑑賞の機会を創出し、市民生活の潤いと心の豊かさを高める。																												
事業内容	コンサート公演、文化講演会、ミュージカル公演等の開催により地域の文化振興や文化意識の高揚を図り、地域の活性化と市民生活に潤いを与える。																												
開始経緯	昭和51年旧志布志町文化会館開館時から開始し、市民に多彩な文化芸術（講演会・コンサート等）に触れる機会を提供することを目的とした事業である。																												
実施状況	(1) トルヴェールクワルテットLive及び管楽器クリニック 令和5年7月2日（日） (2) ミラクルひかる&ほいけんた ものまねライブ 令和6年2月11日（日） (3) なかやまきんに君お笑い&トークショー 令和6年3月20日（水：祝日） (4) 劇団四季ファミリーミュージカル「エルコスの祈り」 令和6年3月22日（金）																												
成果	コロナウイルス感染症拡大防止の規制緩和により、制限なしでの講演を開催した。ソールドアウトする公演もあり、すべての公演において好評を得ることができた。									改革改善案	拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了													
課題	コロナウイルスや社会情勢の変動により、委託料の高騰が危惧される。																												

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名			青少年芸術鑑賞事業			担当課	生涯学習課			(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度				
						担当G	社会教育グループ			活動指標（実施状況）	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)				
							会計	款	項			目	備考	(実績)	(実績)	(実績)					
まちづくりプラン（基本目標）			振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち			予算科目	1	10	4	5									
(個別目標)			2	多様な志を育むまち			主な費目	委託料			ア	実施する事業数	種類	0	0	17	11	11			
(施策)			1	生涯学習の推進			対象	市内の小・中学校の児童・生徒			イ										
(基本目標)			3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる																	
(施策)			5	こころざしアップ教育推進プロジェクト			事業期間	年度～年度（ 年間）			ア	事業実施学校数	校	0	0	10	11	10			
											イ										
(1)総事業費の推移			単位	3年度 (実績・決算)		4年度 (実績・決算)		5年度 (実績・決算)		6年度 (計画・予算)		7年度 (計画・予算)		8年度 (計画・予算)		(4)評価			所管課による評価		
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円									有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	市内の小・中学校を2グループに分け、2年に1回、芸術を鑑賞する機会を提供しており、回数、日程調整等も適切である。 質の高い芸術鑑賞の機会が喪失することで、児童・生徒の感情を育む機会が失われる。 国・県主催の類似事業があるが、毎年ではない。国・県の主催事業があるが、鑑賞する学校が限定され、公平性が保持できない。 市内の全ての小・中学校で実施しているため、公平・公正である。						
		財源内訳	その他特定財源	千円																	
		財源内訳	一般財源	千円	0	0	2,805	1,650	1,650	1,650											
		事業費計(A)	千円	0	0	2,805	1,650	1,650	1,650												
		所要人員(年間)	人	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100													
		人件費概算(B)	千円	560	560	560	560	560	0												
(A) + (B)			千円	560	560	3,365	2,210	2,210	1,650												
(2)事業概要																					
事業目的	青少年に優れた舞台芸術鑑賞の機会を与え、芸術に対する興味・関心を持たせることで、心豊かな青少年の育成を図る。																				
事業内容	市内の青少年に対して、優れた舞台芸術鑑賞の機会を与え、芸術に対する興味・関心をもたせ、創造的な芸術文化の情操形成に資する。																				
必要経緯	健全な心身を持つ児童・生徒を育むため、旧志布志町及び旧松山町が合併以前から実施している。																				
実施状況	宮井紀行アコースティックコンサート 小学校14校 中学校1校																				
成果	国体予算の増加、コロナウイルス感染症の影響により事業凍結していたが、令和5年度より事業再開。 学校からの要望が多かった事業なので、開催にあたり児童・生徒たちの芸術文化の意識向上に役立てることができた。																				
課題	演目の選定																				
改革改善案																					
拡充 ○ 現状維持 改善 効率化 廃止終了																					

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名			志布志市文化会館リニューアル事業					担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度		
								担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
								会計	款	項	目	備考	(実績)			(実績)	(実績)						
まちづくりプラン （基本目標）	振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち					予算科目	1	10	4	7		ア	工事・修繕箇所数	箇所	0 0	0 0	1 1	0 0	0 0	0 0	
（個別目標）	2	多様な志を育むまち					主な費目	工事費、委託料					イ										
（施策）	1	生涯学習の推進					対象	市民					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
（基本目標）	総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる										ア	利用者数	人	51,700 30,550	48,600 47,484	48,000 42,589	48,000	48,000			
（施策）	5	こころざしアップ教育推進プロジェクト					事業期間	平成21 年度～ 年度（ 年間）					イ										
(1) 総事業費の推移			単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価											
年間 トータル コスト	事業費 内訳 人件費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性 評価	・ 市民のニーズ ・ 事業の効果 ・ 政策との整合性 ・ 事業を廃止の影響 ・ 類似事業との連携 ・ 公平性	施設の利便性及び安全性の向上を目的に事業を実施するための改修工事であるため、向上の余地はない。 施設の不具合等が改善されず、利用者の事故等につながる可能性がある。 当該施設の改修・改善工事であるため、類似事業はない。 改修・修繕工事を行うことで、利用者全てに恩恵があるため、公平である。											
		財源内訳	その他特定財源	千円			18,900																
		財源内訳	一般財源	千円	0	0	75	0	0														
		事業費計 (A)	千円	0	0	18,975	0	0	0														
		所要人員 (年間)	人	0.100	0.100	0.100	0.100																
		人件費概算 (B)	千円	560	560	560	560	0	0														
		(A) + (B)	千円	560	560	19,535	560	0	0														
(2) 事業概要													効率性 評価	改修・修繕工事が主な事業費であるため、削減の余地はない。 主な業務内容は改修箇所調査・入札準備等で、人件費及び業務時間の削減の余地はない。									
事業目的	志布志市文化会館の設備に不備がある場合、適宜、修繕等を実施することで安全かつ適正な施設の管理ができる。																						
事業内容	志布志市文化会館は、築46年を経過し、建物や設備等の更新・改修の箇所が緊急的なものを含め多く発生している。19年度に基本計画を策定し、21年度以降、ホール棟・管理棟において各種の増設、改修等工事を行っている。今後の工事としては、ホール天井耐震化、ホール内の座席取替が残る。																						
開始経緯	昭和51年5月に開館して以後、施設の老朽化により不良箇所が発生している。また、当会館は旧来の構造であるため利用者のニーズに応えるには、ホール内の仕様改良・バリアフリー化・駐車場不足解消等の改修が必要に迫られている。このほか、ホール棟の耐震強度の観点からも補強工事（天井部）が必要であることが判明した。																						
実施状況	コミュニティセンター志布志市文化会館屋上防水工事 契約金額：18,975,000円 契約相手方：有限会社 川間塗装工業 修繕概要：文化会館ホール屋上部分の防水工事												達成度 評価	施設の老朽化が進んでおり、施設・設備の更新が急がれる状況であるが、高額な予算を必要とするため進んでいない。									
成果	屋上防水改修工事を実施したことにより、利用者の安心・安全で快適な文化施設としての利用が図られた。																						
課題	音響・照明施設や観客席などの更新を年次的に実施する必要がある。																						
													改革 改善案										
														○ 拡充	現状維持	改善	効率化	廃止終了					

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		創年と子どものまち宣言事業（創年市民大学開設事業）		担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度				
				担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）	単位	（目標）	（目標）	（目標）	（目標）	（目標）	（目標）				
				予算科目	会計	款	項	目	備考			（実績）	（実績）	（実績）							
まちづくりプラン（基本目標）		振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち	予算科目	1	10	4	4		ア 講義・講演数（プログラム数）	回	15 14	15 14	15 14	15	15				
（個別目標）		計画体系	2	多様な志を育むまち	主な費目	委託料					イ										
（施策）		体系	1	生涯学習の推進	対象	市民					成果指標（成果・効果）		単位	（目標）	（目標）	（目標）	（目標）	（目標）	（目標）		
（基本目標）		総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる							ア 市民大学生数	人	70 58	70 58	70 60	70	70				
（施策）		戦略	5	こころざしアップ教育推進プロジェクト	事業期間	平成16 年度～ 年度（ 年間）					イ										
(1) 総事業費の推移		単位	3年度 (実績・決算)		4年度 (実績・決算)		5年度 (実績・決算)		6年度 (計画・予算)		7年度 (計画・予算)		8年度 (計画・予算)		(4) 評価			所管課による評価			
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円									有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	入学生を増加させまちづくりを学ぶ人材確保に努めるとともに、自主研究グループを中心にまちづくり活動（実践）を推進する。 市民がまちづくりを学ぶ場及び関心の喪失につながり、市が目指す共生・協働・自立のまちづくりの推進が鈍化する。 まちづくりの人材を推進する事業がない。 まちづくりに関心のある人はだれでも受講でき、学生一律の受益者負担があるため、公平である。						
		財源内訳	その他特定財源	千円																	
	財源内訳	一般財源	千円	955	1,375	1,375	1,375	1,375	1,395	1,395											
	事業費計（A）	千円	955	1,375	1,375	1,375	1,375	1,395	1,395												
	所要人員（年間）	人	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100													
	人件費概算（B）	千円	560	560	560	560	560	560													
		(A) + (B)	千円	1,515	1,935	1,935	1,935	1,935	1,935	1,955											
(2) 事業概要																					
事業目的	少子高齢化社会の活性化と市民を主役にした生涯学習のまちづくりの推進を図るために「創年と子どものまちづくり」と「地域学から始まるまちづくり」の2つの「志」を掲げ、「人財(布)」を育む市民大学として開設する。																				
事業内容	創年と子どもの交流により、創年にはこれまで培ってきた経験と能力を活かして子どもに対する指導を通じて生きがいをもたらし、子どもには創年に対する尊厳と地域で生きる知恵を継承する全国初のモデル事業であり、創年市民大学は、市民を主役にした生涯学習のまちづくりの推進を図る目的に開学している。																				
開始経緯	平成16年に旧志布志町で宣言された創年と子どものまち宣言事業の一環として、人材づくりを目的に開校した。																				
実施状況	創年と子どものまち宣言事業の一環として、人材を育む市民大学として、平成16年に開校し、20年目を迎えた。																				
成果	第20期創年市民大学は6月9日（金）に開校し、60人が学生登録を行った。																				
課題	在校生の高齢化と固定化に伴い、活動が停滞しつつある。																				
												改革改善案	拡充	○	現状維持		改善		効率化		廃止終了

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		生涯学習推進事業			担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度							
					担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)							
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	公募講座数	講座	140 104	140 97	140 98	140	140							
（個別目標）			2	多様な志を育むまち	主な費目	委託料								20 9	20 21	20 19	20	20							
（施策）			1	生涯学習の推進	対象	市民						成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)						
（基本目標）		3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる																						
（施策）		5	こころざしアップ教育推進プロジェクト	事業期間	平成3 年度～ 年度（ 年間）					イ	短期体験受講者数	人	200 78	200 211	200 197	200	200								
(1) 総事業費の推移		単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4)評価				所管課による評価												
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性 評価	・ 市民のニーズ ・ 事業の効果 ・ 政策との整合性 ・ 事業を廃止の影響 ・ 類似事業との連携 ・ 公平性	生涯学習の受講生は女性を中心に受講しており、男性が受講しやすい講座の開発及び講座の情報発信を行うことで受講生の向上を図る。市民の生涯学習に対する意欲低下、生きがいつくり、仲間づくりの場の喪失につながる。生涯学習講座ではきっかけづくりとなる初心者向けの講座を中心に安価で提供する等、民間企業が提供している講座と重複しないようにしている。各講座一律の受益者負担を設定しており、講座には市民全員が参加することが可能であることから、公平性は保たれている。													
		財源内訳	その他特定財源	千円	20,461																				
		財源内訳	一般財源	千円	1	25,362	25,362	25,362	25,362										25,362						
	人件費	事業費計 (A)	千円	20,462	25,362	25,362	25,362	25,362	25,362																
		所要人員 (年間)	人	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200																
		人件費概算 (B)	千円	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120																
(A) + (B)			千円	21,582	26,482	26,482	26,482	26,482	26,482																
(2) 事業概要																									
事業目的	生涯学習のまちづくりを推進するため、「いつでも」「どこでも」「だれでも」をテーマに、市民の生涯にわたる学習活動を支援するとともに、学んだことを地域社会に還元する生涯学習社会の形成に寄与する。												効率性 評価	・ 事業効果向上 ・ 事業費削減 ・ 事務の効率化 ・ 費用対効果 ・ 財政負担の必要性 ・ 関係者との連携	生涯学習講座数及び受講者数の増加のため、新規講座の開発、講座の情報発信等を推進しており、削減の余地はない。 生涯学習講座数及び受講者数の増加のため、NPO生涯学習センターと連携して事業の支援を行っており、削減の余地はない。										
事業内容	生涯学習推進委員会の諮問を受け、NPO志布志生涯学習センターによる生涯学習講座の開設及び学習成果の発表（生涯学習フェスティバル）、広報誌の発行等を委託する事業である。 生涯学習推進委員会とは、生涯学習の普及と推進を目的に教育委員会が設置した団体であり、35人以内で委員を委嘱している。																								
開始経緯	官民一体となった生涯学習の推進を目指し、平成3年に生涯学習講座の開設をさわやか生涯学習センターへ移管すると同時に本事業を開始した。平成7年、生涯学習推進委員会を設置し、その執行機関として生涯学習センターを開所した。また、平成25年度からは、生涯学習センターのNPO化に伴い補助事業から委託事業へ変更し、生涯学習推進委員会は諮問機関として位置付けた。												達成度 評価	・ 数値目標 ・ 目指す状況 ・ 実現性 ・ 情勢、環境の変化 ・ 事業期間	本市の生涯学習については、県内でも大規模に取り組んでいる事業であり、旧志布志町から継続しているものである。 受講生の数についても、近隣市町とは比較にならないほど多い。										
実施状況	(1) 委託先：特定非営利活動法人志布志生涯学習センター (2) 公募講座（10～12回）																								
成果	公募講座を98講座1,341人、短期講座を5講座57人、体験学習を14講座140人が受講した。講座の計画及び実施については、NPO志布志生涯学習センターと各条例公民館主事が連携し、官民一体となった推進体制が確立している。令和6年2月25日（日）に生涯学習フェスティバルを開催し、学習の成果を発表することができた。												改革 改善案												
課題	新規講座の開設に努力しているものの、講座生の固定化及び高齢化に加え、人口減少が続く中で、新規受講生の開拓がさらに難しい状況となっている。																								

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		志布志運動公園の運動施設管理事業		担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
				担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア 管理体育施設数		箇所	8	8	8	8	8
(個別目標)		2	多様な志を育むまち	主な費目	需用費、役務費、委託料、原材料費、負担金補助及び交付金					イ							
(施策)		3	スポーツ活動の推進	対象	市民					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)
(基本目標)		総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる						ア 利用者数		人	180,000 153,957	190,000 180,921	200,000 206,737	200,000	200,000
(施策)		5	観光パワーアッププロジェクト	事業期間	平成18 年度～ 年度（ 年間）					イ							
(1) 総事業費の推移				単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価				
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円							有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	市民のスポーツ活動の推進のために、欠かすことのできない施設だが、施設の老朽化に伴い、修繕等必要な箇所が増えている。また、スポーツ交流（合宿）人口の増加、競技人口の減少・多様化により競技に応じた施設整備が必要となっている。要望に対応した整備を行うことで、更なるスポーツ活動の推進を図ることができる。				
		その他特定財源	千円														
		一般財源	千円	45,876	48,426	48,152	45,876	45,876	45,876								
		事業費計 (A)	千円	45,876	48,426	48,152	45,876	45,876	45,876								
		所要人員（年間）	人	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050								
		人件費概算 (B)	千円	280	280	280	280	280	280								
(A) + (B)				千円	46,156	48,706	48,432	46,156	46,156	46,156							
(2) 事業概要																	
事業目的	志布志運動公園の運動施設の管理業務を委託する。										効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	施設の管理、運営に係る必要最小限の経費等で委託するため、費用の削減は難しい。				
事業内容	運動公園の運動施設の管理業務委託																
開始経緯	昭和34年の陸上競技場の完成を始めとして、その後体育館・多目的広場等の体育施設が整備され、志布志運動公園の運動公園施設として管理している。平成18年度途中から指定管理者制度を導入し、指定管理者の選定を行い、協定を結び管理を委託している。										達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	適切な管理、運営が実施されており、施設全体で18万人程度に利用されている。市民のスポーツ、余暇、健康増進を更に図るためにも、今後も適切な管理、運営が必要である。				
実施状況	特定非営利活動法人志布志スポーツクラブへ管理業務を委託している。																
成果	指定管理者へ管理委託を行い、施設に密着した管理、運営を行うことにより、施設利用者の利便性の向上が図られた。										改革改善案	拡充	現状維持	○ 改善	効率化	廃止終了	
課題	志布志運動公園体育館の改修工事を令和4年度から5年度にかけて実施したが、他の施設の老朽化、経年劣化等による不具合の発生しており、今後も計画的な改修・修繕が必要である。											利用者の要望を踏まえた施設整備の必要がある。					

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		志布志運動公園の運動施設改修事業		担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度		
				担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)		
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	改修工事件数	件	1	1	2	0	0	
（個別目標）			2	多様な志を育むまち		主な費目	工事請負費、委託料 ※令和4年度通次繰越分含む												
（施策）			3	スポーツ活動の推進	対象		市民 管理体育施設数					イ							
（基本目標）		4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる																
（施策）		5	観光パワーアッププロジェクト	事業期間	H18 年度～ 年度（ 年間）					成果指標（成果・効果）	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
(1) 総事業費の推移		単位		3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価							
年間 トータル コスト	事業費 内訳 人件費	財源内訳	国県支出金	千円		8,080				有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	市民のスポーツ、余暇、健康増進を図る目的で設置された施設であり施設の修繕、改修により、施設を安全・快適に利用できるようになり、スポーツ施設の利用者が増加、スポーツの振興が図られる。							
		財源内訳	その他特定財源	千円		222,557	433,600												
		財源内訳	一般財源	千円	7,865	0	82,355	0	0										
		事業費計（A）	千円	7,865	230,637	515,955	0	0	0										
		所要人員（年間）	人	0.050	0.100	0.100	0.100	1.100											
		人件費概算（B）	千円	280	560	560	560	6,160	0										
(A) + (B)		千円	8,145	231,197	516,515	560	6,160	0											
(2) 事業概要																			
事業目的	社会体育施設の改修、更新を実施し、利用者の利便性・安全性の向上及び施設周辺住民の安全性を確保する。																		
事業内容	利用者が施設を快適、安全に利用し、スポーツを楽しめるよう施設の老朽化による改修工事やゾーニングに基づく地域の特性に合わせた施設整備を推進しながら、改修工事を実施する。																		
開始経緯	施設を設置した時から、体育施設の善良な維持管理を行うために開始された。																		
実施状況	老朽化による修繕だけではなく、スポーツ合宿等に対応するための改修を実施している。令和4年度から令和5年度において、志布志運動公園体育館改修工事を実施した。																		
成果	これまでの改修等で、利用者の利便性・安全性の向上が図られた。																		
課題	老朽化による大規模な修繕が必要な施設が複数あり、大きな財政負担が生じるため、今後も計画的及び年次的な整備が必要となっている。																		
											改革改善案								
												拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了		

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名			志布志市スポーツ協会活動事業					担当課	生涯学習課					(3)指標の推移			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度							
								担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)							
								予算科目	会計	款	項	目	備考				(実績)	(実績)	(実績)										
まちづくりプラン（基本目標）			振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち					予算科目		1	10	5	1		ア	理事会の開催	回	3 1	3 1	3 1	3	3					
（個別目標）			振興計画体系	2	多様な志を育むまち					主な費目		負担金補助及び交付金					イ												
（施策）			振興計画体系	3	スポーツ活動の推進					対象		市民					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)				
（基本目標）			総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる												ア		加盟団体数	団体	20 20	20 20	20 20	20	20				
（施策）			総合戦略	5	観光パワーアッププロジェクト					事業期間		H18 年度～ 年度（ 年間）					イ												
(1) 総事業費の推移			単位	3年度 (実績・決算)		4年度 (実績・決算)		5年度 (実績・決算)		6年度 (計画・予算)		7年度 (計画・予算)		8年度 (計画・予算)		(4) 評価		所管課による評価											
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円											有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	スポーツ協会は、社会体育の振興を図り、市民の体力の向上・健康の増進を推進するとともに、スポーツ精神を養うことを目的としており、現在競技団体やスポーツ少年団が加盟している。加盟についても、幅広く広げているため、公平・公正である。												
		財源内訳	その他特定財源	千円																									
		財源内訳	一般財源	千円	2,329	1,629	2,020	2,579	2,579	2,579																			
		事業費計 (A)	千円	2,329	1,629	2,020	2,579	2,579	2,579																				
		所要人員 (年間)	人	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200																					
		人件費概算 (B)	千円	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120	0																				
(A) + (B)			千円	3,449	2,749	3,140	3,699	3,699	2,579																				
(2) 事業概要																													
事業目的	市民の体力向上と健康増進を図るとともに、組織の強化と競技力の向上を推進し、社会体育の振興を図ることを目的とする。																効率性評価	市主催のスポーツ振興事業への競技参加はスポーツ協会に加盟する会員の協力及びボランティアにより事業が支えられている。競技スポーツの競技力向上はもちろんのこと、生涯スポーツ振興の面からも、今後も継続した取り組みが必要である。											
事業内容	内における社会体育の振興を図り、市民の体力の向上・健康の増進を推進するとともに、スポーツ精神を養うことを目的に平成18年度に市体育協会が設立された。現在は陸上競技、剣道、柔道など20競技団体（令和4年度末）が加盟している。令和5年度から「志布志市スポーツ協会」へ名称変更。																												
開始経緯	平成18年度に市体育協会が設立され補助金の交付要綱に基づき体育協会の運営費の補助を行っている。																達成度評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間						当事業は補助金を交付することで、市のスポーツ発展の中核を担っている体育協会の組織運営を円滑にし、市のスポーツ振興や各競技力向上を目指すものである。今後は、人口減少や高齢化により、会員及び競技人口が減少傾向にあるなか、競技種目が多様化していることから、様々なスポーツを楽しめる環境整備が必要となる。					
実施状況	20競技団体へ育成補助金・競技力向上対策費を助成し、各競技団体の育成及びスムーズな団体運営が図られた。																												
成果	20競技団体へ育成補助金・競技力向上対策費を助成し、各競技団体の育成及びスムーズな団体運営が図られた。また、競技団体においては体育の日を中心に、新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、志布志市体育振興大会を開催し、競技力の向上が図られた。																改革改善案	拡充		○	現状維持		改善		効率化		廃止終了		
課題	スポーツ人口の増加のためには、スポーツ協会の各競技団体が市民ニーズの沿った、参加しやすい企画をしていく必要がある。																												

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

改革改善案

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		生涯スポーツ推進事業				担当課	生涯学習課				(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度				
						担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)			
						会計	款	項	目	備考	(実績)			(実績)	(実績)							
まちづくりプラン（基本目標）		振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち				予算科目	10	5	1	1										
(個別目標)		振興計画体系	2	多様な志を育むまち				主な費目	委託料													
(施策)		振興計画体系	3	スポーツ活動の推進				対象	ア) 市民 イ) 会員数 ウ) スポーツ教室実施数					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
(基本目標)		総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる										ア	スポーツ教室実施数	回	15 15	20 16	20 18	20	20	
(施策)		総合戦略	5	観光パワーアッププロジェクト				事業期間	R1 年度～ 年度（ 年間）					イ								
(1)総事業費の推移			単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価										
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円							有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	クラブの設立により、市振興計画目標値である週1回以上スポーツを行っている成人の割合65%以上の達成や、スポーツに対する市民の幅広いニーズに応えることができる。									
		財源内訳	その他特定財源	千円																		
		財源内訳	一般財源	千円	2,300	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600											2,600	
		事業費計	(A)	千円	2,300	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600											2,600	
		所要人員	(年間)	人	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100											0.100	
		人件費概算	(B)	千円	560	560	560	560	560	560											560	
			(A) + (B)	千円	2,860	3,160	3,160	3,160	3,160	3,160											3,160	
(2)事業概要										効率性評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	クラブの安定した運営のために、会員の確保、クラブの広報・周知及びスポーツ協会やスポーツ少年団等の各種団体との連携が必要となる。										
事業目的	スポーツを通じた健康増進、共生社会を目指し、市民の誰もが、いつでも、どこでも、気軽に、いつまでもスポーツに親しめる環境を整備するため、その活動の中心となる総合型地域スポーツクラブを設立・育成する。																					
事業内容	特定非営利活動法人志布志スポーツクラブに、定期教室やイベントの開催を委託し、総合型地域スポーツクラブ「レインボー424スポーツクラブ」が事業を実施する。																					
開始経緯	国のスポーツ振興基本計画に「全市町村に少なくとも1つの総合型スポーツクラブを置く」と定められており、市振興計画目標値である週1回以上スポーツを行っている成人の割合65%以上を達成するため、総合型スポーツクラブの設置を推進することとなった。																					
実施状況	令和3年2月に総合型地域スポーツクラブ「レインボー424スポーツクラブ」が設立され、事業が実施されている。								達成度評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	令和3年2月に「レインボー424スポーツクラブ」が立ち上げられ、今後様々な活動の展開が期待できるが、継続して財政面を含め援助が必要である。											
成果	令和5年度においては、子どもから高齢者向けの定期教室やイベントが開催され、延べ3,600人を超える参加あり、スポーツの振興や健康増進、体力向上が図られた。								改革改善案	○ 拡充	現状維持	改善	効率化	廃止終了								
課題	クラブを立ち上げた当初は、財政的に厳しい状況が予想される。																					

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		スマートフォンアプリ「スポーツタウン2023プログラム」利用事業		担当課		生涯学習課		(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度					
				担当係	社会教育グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
				会計	款	項	目	備考	(実績)				(実績)	(実績)						
まちづくりプラン（基本目標）		5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち	予算科目	10	5	1	1		ア	実施回数	回	3 2	3 2	5	5	5			
（個別目標）		2	多様な志を育むまち	主な費目	使用料及び賃借料					イ										
（施策）		3	スポーツ活動の推進	対象	市民					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
（基本目標）		4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる							ア	参加者数	人	500 187	600 220	700 229	800	800			
（施策）		5	観光パワーアッププロジェクト	事業期間	R3 年度～ 年度（ 年間）					イ										
(1)総事業費の推移		単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価									
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	市振興計画目標値である週1回以上スポーツを行っている成人の割合65%以上の達成のために、気軽に取り組めるウォーキングやランニングを継続して取り組むために有効である。								
			その他特定財源	千円																
			一般財源	千円	898	1,056	1,056													
		事業費計 (A)	千円	898	1,056	1,056	0	0	0											
	人件費	所要人員 (年間)	人	0.100	0.100	0.100														
		人件費概算 (B)	千円	560	560	560	0	0	0											
(A) + (B)		千円	1,458	1,616	1,616	0	0	0												
(2)事業概要												効率性評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	平成30年度までマラソン大会を開催していたが、開催に伴う事務の削減や大会当日の動員も不要となり、費用も抑えられる。						
事業目的	スマートフォンのアプリを利用したランニング・ウォーキング大会を開催し、体力の向上と健康に対する意識の高揚を図る。																			
事業内容	スマートフォンのアプリを利用したランニング・ウォーキング大会を開催する。アプリでは、大会参加時のランキングだけでなく、毎日の走行距離等が確認でき、運動の継続へのモチベーションを確保できる。																			
開始経緯	令和2年度に、志布志市と株式会社アールビーズが包括連携協定を結んだことにより、同社が開催する「オクトーバー・ラン&ウォーキング」の自治体対抗戦に参加した。新型コロナウイルス感染症の影響で様々なイベントが中止になる中で、影響を受けにくいイベントを今後展開していく必要がある。																			
実施状況	志布志市と包括連携協定を締結している株式会社アールビーズが提供する、ウォーキングの距離等が自動記録されるスマートフォンアプリの使用。																			
成果	令和5年度においては、229名が登録しており市民の健康増進、体力向上が図られた。アプリ内では歩数や走行距離も表示され、全国、県、市内毎に自身のランキングが表示されることから、日常の運動に対する意識の向上とスポーツのきっかけづくりが図られた。																			
課題	アプリの登録がうまくいかないという声もあり、今後改善が必要である。										改革改善案	○ 拡充		現状維持	改善	効率化	廃止終了			
高齢者でもアプリの登録が簡単にできるように、委託業者と連携していく。																				